



伸びるのは

「東ロボくん」の新井紀子先生は、研究の過程で、日本の中高生の読解力が危機的な状況にあることに気づく。例えば次の問題をやってみよう。

*

問1：次の文を読みなさい。

Alexは男性にも女性にも使われる名前
で、女性の名Alexandraの愛称であるが、
男性の名Alexanderの愛称でもある。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから一つ選びなさい。

Alexandraの愛称は（ ）である。

- ①Alex ②Alexander ③男性 ④女性

*

この問題の正答率は中学生38%、高校生でも65%なのだという。ついでにもう一問。

問2：次の文を読みなさい。

アミラーゼという酵素はグルコースが
つながってできたデンプンを分解する
が、同じグルコースからできていても、
形が違うセルロースは分解できない。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから一つ選びなさい。

セルロースは（ ）と形が違う。

- ①デンプン ②アミラーゼ ③グルコース
④酵素

*

これはなかなか難問である。最後に回答をつけておくと、よ〜く考えてね。

新井先生は、このような問題を中高生に解いてもらいながら、基礎的な読解力の中でどのような力が不足しているのかを分析されて

いる。分析ができて、その力を具体的にどうやって養ったらよいか、というところまでは、なかなか結論が出ないようなのだが、とりあえずは、目の前にある教科書をしっかり読める読解力を養うべく、活動を続けていってほしい。

さて、新井先生の調査研究から得られた結論がいくつかあるのだが、当面、私たちに関係する部分は、

①基礎的読解能力値は、中学生の間は平均的には向上する。

②基礎的読解能力値は、高校では向上していない。

である。つまり、①独自入試を題材にして中学時代にしっかり学習した君たちは、高いレベルの現代文の基礎的読解能力を既に身につけている。②しかし、その能力は高校時代にはあまり向上しない。ということになる。

「なんだ、現代文の勉強は役立たないのか」と短絡しないように。これは「基礎的読解能力」の話である。高校では、この基礎的読解能力をさらに高めるために、より高度な論理展開・心理描写の文章を学習し、その過程で、高級語彙と難度の高い漢字・語句を学習しているわけである。

ただし、古典が「基礎的読解能力」を身につけている段階であることも分かるだろう。つまり、古典こそ「平均的には向上する」ものなのである。入試に向けて効率的な学習をしようと思えば、当然ここに注力すべきである。いよいよ受験勉強が本格化するが、伸び代が大きく残っているのが古典であることは常に念頭においておこう。(答：問1① 問2①)